

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和2年9月分）

【製造業】生産の持ち直しの動きがみられる

- 製造業は、7月の鉱工業生産指数では、化学工業を除く主な産業の全てで上昇した。ヒアリングにおいては、4月から6月の大幅落ち込みから完全に挽回体制にある、などとの声があり、回復基調にある様子が窺える。

【地場産業】生産の落ち込みが続いている

- 地場産業は、7月の鉱工業生産指数では、家具、窯業・土石、木材・木工を除いて低下した。ヒアリングにおいては、8月～9月は春～夏と比較しさらに深刻な状態になっている、との声が聞かれるなど、依然として景気の底を脱していないとの声が目立った。

【設備投資】落ち込みが長期化している

- 設備投資は、8月の金属工作機械受注額について、前年同月を下回った。前年同月を下回ったのは、国内向けは21ヶ月連続、海外向けは22ヶ月連続となった。ヒアリングにおいては、今後の設備投資は未定であるとの声のほか、国の補助金を活用してIT関連の設備投資を進めたとの声もあった。

【個人消費】消費は堅調に推移するが、業態により動向に差が見られる

- 個人消費は、小売店の8月の販売額について、コンビニでは落ち込みが続いたが、ホームセンターや家電大型専門店等の販売が増加し、全体では前年同月比で7ヶ月連続の増加となった。ヒアリングにおいては、各種感染防止対策を施しながら集客イベントの実施を図る動きが見られた。

【観光】持ち直しの動きがみられるものの、回復は鈍い

- 観光は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、観光地、宿泊施設ともに前年同月を下回った。特に平日は週末に比べて回復が鈍い傾向が見られる。GoToトラベル等の効果もあり予約は増加傾向にある、との声もあった。

【資金繰り】旺盛な資金需要が続くが、足元の借入申込は落ち着きつつある

- 企業の資金繰りは、8月の制度融資実績で、前月に続き、件数、金額ともに前年同月比で大きく増加した。金融機関からは、企業の資金調達は一巡し借入の申し込みは減少した、という声が多く聞かれた。

【雇用】雇用環境の悪化が続いている

- 雇用面は、8月の有効求人倍率は、1.18倍と8か月連続で低下した。ヒアリングにおいては、人手が余っており新たな雇用をする状況ではないとの声があったほか、人手不足であっても新たな雇用には慎重になっている企業の動きも見られた。

【景気動向】

7月の景気動向指数（一致指数）、8月の中小企業の景況感はともに悪化した。